

少しだけ深く読み解く

「詩劇としての能」02 「山姥」のすべて

京都芸術大学 藝術学舎 二〇二二年度秋季
舞台芸術研究センター提供連続講座

担当講師 **天野文雄**

(京都芸術大学舞台芸術研究センター特別教授)

七〇〇年の歴史と
変化を通して学ぶ、
「現代に生きる能」の魅力

本講座では、「春秋座―能と狂言」シリーズで上演されてきた能のなかから一曲をとりあげ、その映像を用いて「能」という舞台芸術の特色と魅力を考えます。

今回取り上げるのは世阿弥の『山姥』です。

本曲は山姥という妖怪の怪異性に関心が集まりがちですが、講座では、テキスト、演出、素材、逸話などから多角的に、作者世阿弥の「作意」を考えます。毎回、最後の20分程度を受講者の質問にあて、第3回の講義には観世鍔之丞氏をゲストに迎えます。また、今回も能に関心を持つ多くの方の参加を期待します。

■オンライン講座

(遠隔WEB受講・受講生登録制)
講座番号 G2231106

■受講料(全5回) 1万8千円

■定員 二〇〇名

※各回19時00分〜21時00分

第1回	10月12日(水)
第2回	10月26日(水)
第3回	11月9日(水)
第4回	11月23日(水祝)
第5回	12月14日(水)

お申込みはこちら
(WEBのみ)



お申込から
受講開始までの流れ



第1回 10月12日(水)

『山姥』はどのように理解されてきたか

この回では、まず平成二十七年一月に本学の春秋座で上演された舞台芸術研究センター主催の『山姥』(シテ、観世鍔之丞)の映像によって、越後の深い山中を舞台に展開する『山姥』の概略を紹介いたします。続いて、『山姥』についての作者世阿弥の言及、現在までの上演状況や山姥についての最古の文献が能の『山姥』であることなどを紹介し、その上で、江戸時代から現代までの『山姥』の主題についての主要な説を紹介いたします。『山姥』は一休禅師の作という説が江戸時代からあったことが示すように、本曲には仏教的(禪的)な文言や思想がかなり盛り込まれています。それゆえ、『山姥』については仏教的な方面からのアプローチが少なくありません。しかし、もちろん、『山姥』は単に仏教の教義を説いた作品ではなく、一個の舞台芸術作品です。その主題とその背後にある世阿弥の芸道思想についての把握がこの講座の最終目標になります。

第2回 10月26日(水)

山姥が曲中で舞う『山姥の曲舞』をめぐって

この回では、越後の山中で善光寺に参詣しようとする女流曲舞師一行の前に現われた山姥が舞う『山姥の曲舞』という曲舞について考えます。曲舞というのは、能以前に流行した歌と舞からなる芸能で、その音曲を観阿弥が能に取り入れたことで、能が格段に豊かになったことが知られています(その名残りが多くの能の中心に置かれているクセと呼ばれる部分です)。もっとも、この『山姥の曲舞』は女曲舞師が都で舞って評判をとったもので、その曲舞を本物の山姥が真似て舞うわけです。面白い設定ですが、この『山姥の曲舞』で説かれているのは、「煩惱即菩提」(ぼんごうすくばだい)「邪正一如」(ぜんあくふに)という思想です。この『山姥の曲舞』が『山姥』一曲のうちでどういう意味を持っているかは第4回以降で考えることにします。また、この『山姥の曲舞』が謡い物としてまず世阿弥によって作られ、その後、この曲舞を中心にした能『山姥』が作られたという説もありますが、そのことも考えてみたいと思います。

第3回 11月9日(水)

演者と語る『山姥』

〈ゲスト〉観世鍔之丞

この回では、平成二十七年に春秋座で『山姥』を演じられた観世鍔之丞氏をゲストにお招きし、演者の立場から『山姥』について縦横に語っていただきます。『山姥』をどのような作品と把握しているか、上演にさいしてはどのような姿勢で臨もうとしているか、『山姥』の謡や舞の魅力、あるいは工夫のしどころ、演出面では小書『雪月花の舞』などについて、映像を見ながらお聞きする予定です。また、能舞台とは異なる春秋座での上演に際しては、どのようなことに留意されているかもお聞きします。

第4回 11月23日(水祝)

世阿弥が『山姥』で描こうとしたこと

山姥は曲舞(『山姥の曲舞』)において、「邪正一如」の理りを説いているにもかかわらず、終曲部では、輪廻妄執を象徴する「山巡り」を見せて消えてゆきます。この点は従来も『山姥』における大きな疑問とされてきました。山姥はたして悟りを得ることができたのかどうかという疑問です。『山姥』がよく分からない能だという大方の印象もこの点に起因しています。しかし、それはそのような疑問自体が的をはずしているといわざるをえません。なぜなら、山姥はその前の『山姥の曲舞』において、この世のあらゆる現象は「邪正一如」だと説いているからです。このような展開によって、この世のあらゆる現象はすべて真理だとする「諸法実相」という、当時の思想でもあると同時に、世阿弥の芸道思想にもつながるテーマが立ち現れてくるのです。

第5回 12月14日(水)

『山姥』の総合的・統一的な把握

この回では、これまでの講義をふまえて、『山姥』を一曲を通して読み解きます。現在の能の鑑賞は型や謡という「部分」への注目にかたよる傾向がありますが、それだけでは作者が作品にこめたテーマの把握までには届きません。詩劇として作られている能は、一曲を総合的かつ統一的に把握することによって、はじめてその魅力がわたしたちのものになるのです。総合的には作品におけるすべての設定や表現に留意することであり、統一的とはそれらが一曲においてどのように関連しあっているかということことです。



お申込みはこちら
(WEBのみ)



お申込から
受講開始までの流れ

※秋季講座情報は2022年9月1日(火)に公開されます

■ 受講料(全5回) 18,000円 ■ 定員200名

■ お申込み受付期間

2022年9月8日(木)13:00～10月2日(日)13:00

■ お問い合わせ

京都藝術学舎 tel.075-791-9124 受付時間 10:00～16:00(月～土)

<https://air-u.kyoto-art.ac.jp/gakusha/>